

第1節 人権を尊重し、人との出会いを大切にすまち

2 男女共同参画社会

～男性と女性が家庭、職場、社会などで互いに協力しながら、同等に参画できるまち

<A 基本計画の目標>

男女が社会のあらゆる分野に同等に参画でき、かつ責任を分かち合う社会の実現をめざします。
 女性に対する相談・自立支援の充実をめざします。
 男女がともに自立し、支え合う地域社会の実現をめざします。
 市民、事業者、行政が連携しながら、男女の多様な生き方の実現をめざします。
 生涯を通じて男女共同参画社会の理解と学習を進めます。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	50.1 %	53.9 %	58.6 %	52 %	53.5 %	↑

<C 目標達成に向けた24年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

【経営企画部】	自己評価
平成24年3月に策定した「かまくら21男女共同参画プラン(第2次)」に基づく、前期推進計画(平成24年度～平成28年度)により、男女共同参画の推進に努めました。また、平成24年2月に、「審議会等における男女いずれか一方の数が総数の10分の4未満とならない」とする目標を定めましたが、達成する審議会は全体の30%にとどまっています。	△
市民団体と協働で、男女共同参画フォーラムやセミナーの開催、情報誌「パスポート」の発行、「第4集通史」を中心に女性史の有償頒布を行いました。フォーラムでは映画上映等を実施しほぼ満席の参加があり、セミナーも、女性の視点による防災等をテーマとし、多数の参加がありました。かまくらの女性史について、「第4集通史」は、平成24年度で550部以上、第1集から第3集については、合計以来4,000部近く有償頒布したほか、図書館でも貸出されるなど、数多くの市民の方に読まれています。24年度については、さまざまな分野から女性の人権や男女共同参画について考える機会をつくり、アンケート調査結果などからも一定の啓発効果があったと考えています。	○

前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

<D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

【経営企画部】	⇒	【経営企画部】
・DVIについては、男性被害者も多数存在していると思われる。(特に精神的暴力。)	⇒	男性被害者からの相談については、県や民間団体が広域的に対応しています。
・女性のみならず、男性に対する対応にも注力して頂きたい。		男女共同参画の推進を目的として行う事業として、女性・男性双方の視点から考えるテーマを加えていくことを検討していきます。

・情報誌「パスポート」、女性史第4集の発行などは市民に十分周知されていない。女性史事業がどのような市民から評価を受けているかなどは不明である。

・フォーラムやセミナーが有意義であるように企画するべく、実施は民間主導へと移行させていくべきである。

女性史第4集は1年間で550部購入されたほか、メディア各紙で紹介されるなど、一定の市民評価を得ているものと考えます。また、パスポートについては、内容や仕様を変更し、手に取りやすい工夫を行うこととしています。

社会経済状況に注目し、今求められているテーマを取り上げるよう努めています。また、平成25年度から事業実施負担金として交付するなど、市民団体が主体性を持って活動できるよう環境を整えつつ、段階的に民間主導に移行できるよう努めています。

<E 24年度未達成事業の課題・問題点など>

【経営企画部】

「審議会等における男女いずれか一方の数が総数の10分の4未満とならない」とする目標に対し、達成する審議会は全体の30%にとどまっています。

※未達成の理由<支障となった理由>

主な理由としては、役職者に男性が多いことや特定の専門分野に女性が少ないことなどが挙げられています。

<F 今後の展開(取組方針)>

【経営企画部】

「かまくら21男女共同参画プラン(第2次)前期推進計画(平成24年度～28年度)」に示す重点事業(「審議会の女性委員の参画率引き上げ」、「女性職員の登用拡大」、「子育て支援体制の充実」など)を中心に事業を推進していきます。審議会については、委員の改選時期をとらえ、男女委員数の割合に配慮するよう担当課に求めています。

<G 実績指標:事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	H22年度 目標値	H27年度 目標値
審議会等への女性委員の登用率(+)	市に設置された各種審議会の委員総数に占める女性委員の割合	21.4 %	24.3 %	31.6 %	31.7 %	29.8 %	30 %	40 %
固定的性別役割分担意識(-)	固定的性別役割分担意識を肯定する市民の割合	49.8 %	47.2 %	48.8 %	42.2 %	46.7 %	43 %	33 %

<H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	6,212千円	5,008千円	5,194千円	6,623千円	3,700千円			
	(国・県)	0千円	0千円	0千円	0千円	665千円			
	(負担金等)	50千円	202千円	55千円	665千円	479千円			
	(一般財源)	6,162千円	4,806千円	5,139千円	5,958千円	2,556千円			
	人員配置数	2.1人	2.1人	2.1人	2.1人	1.1人			
	人件費 (B)	19,387千円	18,589千円	18,024千円	18,076千円	8,813千円			
	総事業費(A+B)	25,599千円	23,597千円	23,218千円	24,699千円	12,513千円			
	対前年比		92.2%	98.4%	106.4%	50.7%			

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・市民団体との協働でフォーラムやセミナーを開催し、情報誌の発行など意識の啓発に努力した。
- ・「審議会等における男女いずれか一方の数が総数の10分の4未満としない」とする目標を定め、少しずつ押し進めており、さらに、審議会等への女性委員の登用率の伸び悩みの原因が分かった点は良い。
- ・市民団体が主体性を持って活動できるよう環境づくりに努めた。
- ・課題について、女性の視点でのセミナーを実施した。



課題・提言

- ・市民満足度は微増で横ばいである。
- ・審議会等における女性比率が全体の30%にとどまり、停滞傾向である(平成24年度は低下している)。女性委員の登用率アップへの対策が見えない。
- ・本委員会で行ったスポット評価に市側から出席された女性職員は少なく、まだまだ市役所は男性社会だと感じる。もっと積極的に女性職員の登用ができる環境を整備し、民間の手本となるように進める必要がある。
- ・ただし、そもそも、女性の登用率を上げるための施策が市の仕事なのかを再検討すべきである。市民に理解される施策とは思えず、施策そのものの見直しが必要である。
- ・男女共同参画は、それ自体が目的ではなく、様々な課題や事業について、より適切な対応や実施を行うための一つの手段であることから、参加比率にこだわりすぎる必要はなく、審議会等においても男性または女性の参画が少ないことにより、偏った審議が行われていないかを評価すべきである。男女共同参画は必ずしも同じ場で男女が議論する必要はなく、両者の意見が適切に反映される仕組みが重要である。
- ・市民、事業者、行政が連携しながら、男女の特異性を活かし、且つ、多様な生き方の実現をめざす必要がある。
- ・男性からの視点の取り入れの具体化が必要である。
- ・固定的性別役割分担意識という目標設定が分かり難い。
- ・パスポート、かまぐらの女性史の発刊などは十分認知されておらず、これまでの取組に大きな変化がないことから、あまり評価できない。PDF等で無料配布し、多くの人に知ってもらうことが重要である。
- ・男女共同参画については、鎌倉市のみならず、かながわ女性センター(江ノ島)との連携や国立女性教育会館の研修や取組を参考にすることも重要である。
- ・新たな取組の方向性は示されているが、成果は今後に期待される。

この分野のめざすべきまちの姿に向けた平成24年度の取組は、普通であった。